

国語

〔共通問題〕

〔一〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「みんなは電車の中ではおりこう(ア)にしているよ。恥ずかしいなあ」
「多数決だし、みんながそれが正しいと言っているんだから。それをソントウ(イ)すべきじゃないのか」
「みんなと同じ行動をしないのは、おまえがワガママだからだ」

こんなふう「みんな」を持ち出されると、自分の感じていること・思っていること・考えていることを行ったり、口にしたりすることがいけないのだと思っても当然だ。こうして自分の言葉で話すことは、Aを乱すワガママな振る舞いなのだと捉えることを自然と学習してしまふ。

小学校に入学したとき、どうしてもテイコウ(ウ)を覚えたことがあって、それはセイレッツ(エ)する際の「前にならえ」だった。なぜこんな奇妙な格好をしなければいけないのか納得ができなかった。みんなに揃そろえて並ぶ必要がどこにあるのかわからなかった。
だいたい前の人とのカンカク(オ)なんて目で見ればわかるだろう。感覚でわかることをわざわざ確認させることの意味がわからない。僕のことをそんなにアホだと思っているんだらうか？ 心の中がざわざわしているし、従いたくない気持ちがいっぱいだから、いやいや前にならえをする。当然ながら肘を真っ直ぐすに伸ばすなんてことはしない。そしたら不真面目だと教師に怒られた。「いつまでも幼稚園の気分であるな」みたいなことを言われたのをセンメイ(カ)に覚えている。1そんなことを真顔で指導している教師が信じられなかった。

2 学校教育というのは、自分を直線に揃そろえることなんだと後になって理解した。前にならえでは、膝も背筋も気をつけの姿勢を取り、肘を水平にして手を前に出す。身体の本来持つ自然さからしたら極度に不自然な姿が正しいとされる。ともかく教師の言うことに反論してはいけないし、額面通り受け取らないといけない。前例に従う。一方通行の線的な理解を要求される。なぜ？ と問うことは線の世界を曲げるし、脱線させることになるので罰せられる。

僕らの世代は体罰が常識だったから実際に殴られた。理由は言うことを聞かない、つまり命令に従わないからだ。こうした支配のルール設定からは自己否定は大いに促されても、肯定の動きは生まれない。

僕は仕事で学校の取材をする機会もそれなりにあるので、見知った限りでは、かつてのようなめっちゃくちゃな教育現場は少なくなったとは思
う。個人をソynchョウし、自己肯定感を促す教育は大事だという認識は広まってはいる。

でも先日、^(キ)センシンの教育を行ってことで有名な小学校を見学した際、確かに個人のソynchョウと自己肯定感の促進がうたわれてはい
たけれど、そうやって強調されるほどに以前と同じような、みんなに揃えて自己否定感を育ていく教育の影の濃さを感じたのも確かだった。

その学校の特徴のひとつは、生徒の自主的な発言をソynchョウし、教師は最後まで遮らずに話を聞くという授業を行うことにあった。僕は希
望した授業の見学に向かうため廊下を歩いていた。そこは2年生の学級が割り振られたフロアだった。

その学校に入った瞬間からすごく気になっていたのは、校舎の中にも多くの^(ク)ヒョウゴやポスターが溢^{あふ}れていたことだった。低学年の
階もそうで「○○学校の子らしく」とかクラスごとの年間の目標とかが貼られていたり、どこに目を向けても文字が飛び込んでくる。空間に抜
けがないので圧迫感を覚えつつ歩いていた。すると階段の踊り場の手前の掲示板に貼られていたスローガンに目が釘^{くぎ}付けになった。

「他者を意識しよう！」

⁽³⁾ 気づいたらグッと拳を握っていたし、胸がむかむかした。いったい子供たちに何を教えようとしているんだろうと、怒りが湧いた。「他者」
も「意識」も低学年には理解が難しい内容だから怒っているのではない。

これが「友だちの気持ちを考えてみよう」だったらまだわかる。わかるけれど、そうしたところでそれをスローガンにして常に子供たちの目
に飛び込ませることの^(ケ)ハイガイについて考えたことがないから、こんなことが平気でできるんだと思った。

胸に手を当ててみればわかるはずだ。友だちも気持ちも概念じゃない。友だちが傷ついたり悲しんだりしていて、「どうしたの？ 大丈夫？」
と声をかけるのは概念を理解して行うことじゃない。

身近な人、大事な人が悲しんでいるから声をかけるんだ。「心配しているから」と一拍おいてからじゃない。その人が悲しんでいるから手を
差し伸べるんだ。だって友だちだから。それを他者や意識という概念に置き換えて実行させようとするしたら「それを守れないと学習したと
は見なさない」という脅しが本当に伝えようとしているメッセージではないか、と感じるのは^(コ)ジャスイではないと思う。

これは「前にならえ」と同じであり、装いを変えた「みんながそれを正しいと言うから守らなくてはいけない」でしかないかと僕は感じる。

みんなはともかく「あなたはそれをどう感じるの？」という、とても素朴な問いかけは、「なぜそう感じるんだろう？」というふうに分
内側に謎を見出す^{みいだ}ことになっていく。これはスローガンにならない、それぞれの人の胸に宿る小さな炎だ。「あなた」とは、誰かのことじゃな

い。最初の問いは自分に向けられている。新しい出会いがあった瞬間、「なんだろう、これ？」と湧き上がる問いが誰しもある。知識と照らし合わせて正解が知りたいという欲求よりも、もつと前にある純粋な自分に対する問いかけだ。

「〇〇しよう」といった僕はどう感じているんだろうか？　これがあらゆる行動の原点にある。自分が自分らしくあることの出発点だ。そうであるなら、「〇〇しよう」といったスローガンで空間を覆っている様子は、まるでお札を貼っているように見えてこないだろうか。何を封じているかというたら邪な霊ではなく、「あなたはそれをどう感じるの？」という率直で真摯な謎への問いかけではないかと思う。⁽⁴⁾大人は何に怯えているんだらう。おそらく「感じること」だ。

感じることは「感じようとして感じる」ことじゃない。たとえば、ご飯を食べていて「美味しいな」と感じるとき、特に「感じようとして感じ」てはいないはずだし、そんな不自然なことなら食事を楽しめない。それに誰かが美味しいと言ったから、美味しいと感じたわけじゃない。でも、スローガンは違う。「感じようとして感じる」習慣を僕たちに覚えさせようとしている。そうすると、それは自分ではなく、誰かのように感じることにしかならない。

だって「〇〇しよう」とはあらかじめゴールが決まっていること、正解に向けて行うことが正しいと言っているのだし、つまり感じ方が前もって決まっていることだからだ。それが「他者を意識しよう」というスローガンを意識させることの本当の、そして無自覚に伝達しようとするメッセージなんだと思う。

⁽⁵⁾そうになると、いまの世の中でこれほどまでに自己肯定感が強調されるのは、ひとつのまやかしじゃないかと思う。⁽⁶⁾それに見落とされがちながある。突き詰めれば、肯定感は肯定と似ているけれど、肯定に似た何かでしかないということだ。「肯定感が大事だ」と唱えるとき、そこに「感」という語はついていないけれど、実は自分が感じていることを大事にしているんじゃないか。

ポジティブな発想でいつも感謝の気持ちを大切にしたら、瞑想をしたら、生活習慣を変えたら自己肯定感が高まる。そうやって実際に高まったという人がいるだろう。それは嘘じゃない。でも、それはスローガンの実行でしかないんじゃないか。自己肯定感とは、感じようとして感じたことではないんじゃないか。そのとき僕らはまたしても教えられた通りのことに従っているだけじゃないか。

自分の感じていることには、本当は誰かの承認は必要ない。当たり前だけど、他人は自分ではないから。自己肯定感という語には「自己」がついているので、一応は「他人の承認は必要ないんだよ」という含みはある。けれど肯定ではなく、「肯定感」という言葉に自分を委ねがちなのは、「感じようとして感じた」遠回りの道を進まないと自信が持てないと思っっているからではないか。そんなふうな確認はもうしなくてもいいはずだ。

遠回りしないとは、⁽⁷⁾肯定感の「感」を取ること。とても簡単だ。ただ自分が感じていること、思っていること、考えていることを声に出す。「こんなことを言ったらどう思われるだろう」とみんなや空気を察知してジャッジしたり、遠回りした言い方をしたりすることなく、言葉を口にする。自分の中に湧いた水が流れるままにする。それが肯定だ。

呼吸しているときに「息をしている感じ」はないように。ただ息をする。それはあえて肯定するようなことでもなく、普通のことだ。つまり自分が自分らしくあるのは、とても普通のことだ、それは本当は肯定も否定もしようのないただの事実だ。

(尹雄大『句点。に気をつけろ』による)

問一 傍線部(ア)～(コ)のカタカナで表記された語句と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解
答番号は 1 10。

(ア) リコウ

1

- ① コウゴ体の文章を書く
- ② 薬品の優れたコウノウ
- ③ ケンコウに気をつかう
- ④ 小雪のコウ、ご健勝のことと存じます
- ⑤ チュウコウの道の教え

(イ) ソンチヨウ

2

- ① キンチヨウのあまり手が震える
- ② 競走馬をチヨウキヨウする
- ③ 軽はずみのないようジチヨウする
- ④ 練習を通して力をシンチヨウする
- ⑤ 歩を進めてサンチヨウまで登る

(ウ) テイコウ

3

- ① 結果よりもカテイを重視する
- ② 人材がフツテイしている
- ③ 料理のテイサイに気を配る
- ④ タイテイのことは乗り越えられる
- ⑤ 株価が急激にテイラクする

(エ) セイレツ

4

- ① 視力をキョウセイする
- ② セイコツ院で治療する
- ③ ブームがチンセイする
- ④ ヨクセイ的に表現する
- ⑤ セイサイな調査をする

(オ) カンカク

5

- ① バックミラーのシカクに入る
- ② 数年前とはカクセイの感がある
- ③ 人間関係のカクシツ
- ④ 訪問先でベツカクの扱いを受ける
- ⑤ 断られることはカクゴしている

(カ) センメイ

6

- ① 書物からセンケンの知恵を学ぶ
- ② この地は昔からセイセンが湧く
- ③ センジョウ剤で衣服を除菌する
- ④ 流行のカンセンシヨウに気をつける
- ⑤ シンセンな食材を仕入れる

(キ) センシン

7

- ① このたびのご恩にシンシヤします
- ② 幹部の顔ぶれをイツシンする
- ③ ジュンシンな心でまっすぐ向き合う
- ④ かねてからの施策をスイシンする
- ⑤ 思想・シンジヨウの自由を保障する

(ク) ヒョウゴ

8

- ① 地図上でのザヒョウを確かめる
- ② 両者は反対に見えてヒヨウリ一体だ
- ③ 物語を新たな視点からヒヒョウする
- ④ 無人島にヒョウチャクする
- ⑤ 経理係が新たにキヒョウする

(ケ) ヘイガイ

9

- ① ヘイソク感のある時代
- ② おじはゾウヘイ局に勤めている
- ③ その案件はヘイシャにお任せください
- ④ 議論はずっとヘイコウ線のままだ
- ⑤ 新旧二つの勢力がヘイソンする

(コ) ジャスイ

10

- ① きこの夜の夜はジユクスイできた
- ② 議長に彼をスイキヨします
- ③ 時代を経て勢力がスイタイする
- ④ 憧れの人にシンスイする
- ⑤ そんな言動はとでもブスイだ

問二 空欄 A に当てはまる語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 11。

- ① 身体性
- ② 寛容性
- ③ 多様性
- ④ 傾向性
- ⑤ 協調性

問三 傍線部(1)「そんなことを真顔で指導している教師が信じられなかった。」とあるが、筆者がこう述べる理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 12。

- ① 「前へならえ」という不自然な格好をとることで、前の人とどれくらい身体が離れているかという、目で見ればわかること、感覚でわかることをわざわざ確認することに違和感をもったから。
- ② 「前へならえ」という姿勢で前の人との距離感を測らせることについて、わざわざこのようなことをしなければ自分は距離感が分からないのだと教師に思われていることに失望し、自己嫌悪の念を抱いたから。
- ③ 「前へならえ」という不自然なポーズをとらされることで、心の中が波立つような感覚になり、教師にわざわざ逆らいたくはないと思いつつどうしても従えないという感覚をもったから。
- ④ 「前へならえ」という、膝や背筋を「気をつけ」にし、肘を水平にして手を前に出す姿は自然なものと感じられないため、一律に求めるのではなく、段階的に求める必要があると考えたから。
- ⑤ 「前へならえ」という姿勢をとらせる教師は、自分の言うことに対する反論は認めず、それまでなかったような要求もいきなりしてることがあったため、「なぜ」と問う気力も失ってしまったから。

問四 傍線部(2)「学校教育というのは、自分を直線に揃えることなんだと後になって理解した。」とあるが、ここで用いられている表現技法として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 13。

- ① 対句法
- ② 擬人法
- ③ 隠喩
- ④ 体言止め
- ⑤ 倒置法

問五 傍線部(3)「気づいたらグッと拳を握っていたし、胸がむかむかした。いったい子供たちに何を教えようとしているんだろうと、怒りが湧いた。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① 「他者を意識しよう」というスローガンは「それを守れないと学習したとは見なさない」という脅しそのものであり、ことばと裏腹に子供に何かの行動を強いることに強い怒りを感じている。
- ② 「他者を意識しよう」というスローガンを常に子供たちの目に飛び込ませることは大きな問題であるため、「友だちの気持ちを考えてみよう」といった、より穏当なスローガンに変更すべきであると考えている。
- ③ 「他者を意識しよう」というスローガンでは、身近な人、大事な人がどんな思いで過ごしているか、どんな悲しさを感じているのかを一拍おいて考えられていないことを強く問題視している。
- ④ 「他者を意識しよう」というスローガンに基づいて行動することよりも、大事なものは目の前の友だちが悲しんでいるから動くという心からの思いであり、このような思いを軽視することへの大きな憤りを感じている。
- ⑤ 「他者を意識しよう」というスローガンには「前にならえ」と同じ問題があり、他者の気持ちにあわせて行動するという点で判断基準が自分の外にあることへの危機感を持っている。

問六 傍線部(4)「大人は何に怯えているんだろう。おそらく「感じること」だ。」とあるが、筆者は大人が何に怯えていると考えているか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 15。

- ① 大人が怯えているのは、子供が自分の感情や感情の理由にしっかり目を向けて、自分自身の思いに向き合い、その思いを大事にしようとするからだということ。
- ② 大人が怯えているのは、子供がスローガンに置き換えられない怒りや悲しみに目を向け、その感情を大人にぶつけて思いどおりに大人を動かそうとすることだということ。
- ③ 大人が怯えているのは、子供が新しく出合ったものについて「なんだろう、これ？」と問いを向け、自分だけでなく世界に対する見る目を磨くことだということ。
- ④ 大人が怯えているのは、子供が自分自身の思いを丁寧に見ようとし、ここではどんなことを考えるべきなのか知りたいという前向きな欲求を持つことだということ。
- ⑤ 大人が怯えているのは、子供が自分らしくあろうとして、「○○しよう」といったスローガンを自己実現のために活用しようとすることだということ。

問七 傍線部(5)「そうになると、いまの世の中でこれほどまでに自己肯定感が強調されるのは、ひとつのまやかしじゃないかと思う。」とある

が、筆者がこう述べる理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 16。

- ① 自己肯定感というとき、しばしば誰かが「自分を肯定できた」と言ったのをまねようとするところがあるが、むしろ本当の自己肯定感他人と関係なく、自分で自分を肯定しようとするところから生まれるから。
- ② 自己肯定感を得るためには、ご飯の美味しさを「感じよう」として感じるのではなく、食事を楽しむように、そのスローガンが自然に感じられるように努めなければ、自分自身に嘘をつくことになってしまうから。
- ③ 自己肯定感と言いつつ「感じよう」として感じるものになってしまい、心の底から自然に感じるというより、誰かが言っているように、あるいは誰かが感じているように感じるようになってしまうから。
- ④ 自己肯定感が強調されることで、ややもすると「感じよう」として感じる「習慣をわたしたちが身につけてしまうが、そのような習慣化を避けて自己肯定を目指していく必要があるから。
- ⑤ 自己肯定感というフレーズは、あらかじめ「自分を肯定する」というゴール、正解が決められているものであるが、他者から押し付けられないようにして自分でゴールを設定する必要があるから。

問八 傍線部(6)「肯定感は肯定と似ているけれど、肯定に似た何かでしかない」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 17。

- ① 「肯定感」には「感」という字がついているものの、実は自分がいつのまにか感じていること、心から感じていることを大事にしているため、本当の「肯定」とはいえないということ。
- ② 「肯定感」を高めるために感謝の気持ち、瞑想、生活習慣などを工夫することが求められ、実際に「肯定感」が高まった人たちがいるが、それらは本来の「肯定感」ではなく、これと別に本当の「肯定感」があるということ。
- ③ 「肯定感」をもつために重要といわれることをいくらやっても、それはスローガンの実行でしかなく、本当の「肯定」をするためにさらにかみ砕き、自分のものにしていく必要があるということ。
- ④ 「肯定感」を高めようとしていろいろ工夫してみても、それは感じようとして感じたことではないため、意識しなくても「肯定感」をもてるように鍛錬し、本当の「肯定」に変えていくべきということ。
- ⑤ 「肯定感」が大事だと考えるとき、わたしたちは教えられた通りのことに従っているだけであり、実は他者のいうことを一度批判的にとらえてみるのが直接わたしたちの「肯定」につながるということ。

問九 傍線部(7)「肯定感の「感」を取る」とあるが、そのためにはどうすればよいか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 18。

- ① みんなの様子や空気を察知してジャッジしたり、遠回りした言い方をしたりすることなく、自分で自分に確信がもてることはしっかりと他人に伝えていこうと意識する。
- ② 自己肯定感に「自己」という語がついているように、自分の感じていることに対して誰かの承認を求めるのではなく、自分で自分のことを努めて大切にしよう、肯定しようと考えてる。
- ③ 肯定感という言葉には「感じようとして感じた」という遠回りの道を進まない自信が持てないというニュアンスがあるが、遠回りをするのも大事であるから、一歩進んで確かな自信をもつ。
- ④ 呼吸しているときに「息をしている感じ」がないように、「肯定している感じ」を求めて肯定しようとするのではなく、自分が思っていること、考えていることを自然に表現する。
- ⑤ 自分が自分らしくあるのは普通のことであり、肯定も否定もできないことであるから、否定する感覚をもたないように強く心がけることで、あるがままの自分を肯定するように意識する。

問十 この文章を読んだ5人の生徒が、本文に関して具体例をあげながら話している。生徒の発言のうち、本文の趣旨に合うものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 19。

- ① Aさん クラスの中で過ごしていると、どうしても他の人の自分に対する評価が気になってしまう。けれど、周りの人の声を気にしすぎて自分らしさを失ってしまったら本末転倒だ。時には反論しながら、自分の大事なことを守るよう強く意識すべきだね。
- ② Bさん 「青春を楽しもう」とみんな言うけれど、だからといって自分も「青春」のキラキラした経験をしなければいけないということはない。それを本当にやりたければやるべきだけど、大事なのは「青春」といったラベルより、自分がどう感じるかだよ。
- ③ Cさん 「あいつはできているのに、どうしてお前はできないんだ」という声は、「みんな」と同じになることを求める意味で、自己否定の心を育ててしまう。短所より長所に目を向けて、どうしたら今の自分を受け入れられるか考えてみるのが大切なんだ。
- ④ Dさん 「あの人はあんなに素敵なのに、自分といたら…」という思いは、他人と自分を比較している点で、肯定の気持ちを育てにくい。他人と比べることなく、自分がどんなことをしたいかを一度概念として捉えることで、客観的に自分を受け入れるべきだ。
- ⑤ Eさん 友だちが困っているときに手を差し伸べることは、自分を認める心がないとできない。自分を肯定している人しか他者を肯定することはできないのだから、積極的にほかの人のサポートをすることで、自分のことも受け入れていくのが大事だね。

問十一 この文章の特徴として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 20。

- ① 主張に対する反論に一旦譲歩することで、多角的な議論を進めようとしている。
- ② 筆者自身の体験談や具体例を挙げることで、効果的な説得を行おうとしている。
- ③ 主張と具体例を順序立てて並べることで、多面的な理解を促そうとしている。
- ④ 説明の中でオノマトペを多用することで、感覚的な共感を得ようとしている。
- ⑤ 事実やデータを示しながら論証することで、客観的な説明をしようとしている。

〔選択問題〕〈現代文〉か〈古文〉かの、どちらかを選択して、一方のみを答えなさい。

〔二〕〈現代文〉

次の文章は、東京に暮らす筆者が、岐阜県の久々利という山里に住む陶芸家・荒川豊蔵（一八九四～一九八五）のもとを訪ねた時のことを書いたエッセイの一節である。なお、この文章の前には「陶芸家の荒川豊蔵氏ほど、生活を楽しんでいる人を私は知らない。」という一文がある。これを読み、後の問いに答えなさい。

御嵩みたけから私たちは山越えで久々利へ出た。途中荒川さんは、車をとめて、しきりに何かつんでいられる。たらの芽と山椒さんしょう、時にはわらびなどで、これは今夜のお菜になるそうである。

その山中には、いくつも桃山時代の窯跡が見られた。本屋敷（久尻）、高根、大平、中窯、弥七田など、いずれも昭和のはじめ頃、荒川さん注1や魯山人注1によって発掘された。今住んでいられる大萱おおがやもその一つで、「牟田洞古窯跡」と書いた石標の前で車を降りる。そこからは、雑木林の山道で、都忘れの花が一面に咲いている。「都忘れ」――この可憐な花に私は、ふと心の中を見すかされたような感じがした。

上からお嬢さんと、二匹の犬がかけ下りて来る。前にはお弟子さんもいたが、今はそれぞれ独立して、近所に窯を持っていられる。この山中に、女一人のるす番は寂しかろうが、彼女は平気だそうで、急な客が現われても、一向動じる様子もない。

山の中腹を切りひらいた所に、美しい茅葺かやぶき屋根の田舎家があつて、ここが荒川さんの住居である。元はと言えば仕事場だったので、別荘風な匂いはなく、民芸的なてらいもなく、美しく住みこなしていられる。一度泊とまりたいと思つていたが、その願いが叶かなえられたのはうれしい。「お風呂を」といわれるので、どこかと思つたら外にある。ほとんど野天風呂の感じで、時々みみずくがのぞきこむ以外、誰も来るものはないからゆつくりお入りなさい、といわれた。

床注2の間には、いい信楽しがらきの壺つぼに、鉄仙が一輪、掛物かけものは光悦の書で、「二十六日に」なんとかと書いてある。そう言えば、今日は二十六日であった。途中でつんだ山菜といい、こういう心づかいといい、私には何よりの御馳走ごちそうだ。荒川さんがいい生活をしていると書いたのも、贅沢ぜいたくという意味ではなく、自分にも他人にも、心の通つた付き合いをされるからで、それこそ豊かな暮くしというものであろう。そういう暮し方を、荒川さんは、焼きものから教わつたに違いない。ろくろを回す手の中から覚えたと思う。さらにいえば、その背後にある茶道の伝統も忘れてはなるまい。お茶は却かえつてこういう所に生きている。虚飾にみちた茶道の世界ではなく、お茶の飲み方も知らない（と荒川さんはいわれる）自由な生活の中に。光悦も信楽も、ここでは美術品ではなく、日常の暮しの中に何げなくおさまつて、そのあるべき姿かたちに還かえつたように見うけられる。

いろいろ端でごはんを頂く。お嬢さんはかたわらでお豆腐を焼き、荒川さんはおかん注3をして下さる。途中でつんで来た山菜もおいしい。お菜と

いえばそれだけだが、私には十分であった。私は満足して、ぐっすり寝た。明け方近くほととぎすが二声三声啼いたのを覚えているだけである。翌朝は寝坊して、小川へ顔を洗いに行く。雑木林を通ず朝日がまぶしい。朝ごはんの時、折角ここまで来たのだから、先日見そなった飛驒の桜を見に行かないか、と荒川さんはすすめ、私もその気になる。高山線には美濃太田から乗るのだが、汽車に間があるので、景行天皇の「久々利の宮跡」へよつてみた。日本書紀には、「泳」と書いてある所で、荒川さんのお家から歩いて二、三十分の距離にある。

景行四年、天皇はしばらくここに滞在された。八坂入彦の女に、弟媛という大そう美しい佳人がいると聞き、天皇はその邸に行つてみたが、媛は竹林にかくれて会おうとしない。そこで泳宮を造り、池に鯉を放つて、しばらく様子を見ることにした。すると、ある日媛がひそかに鯉を見に来たので、天皇は宮の中にひき入れ、自分の物にしてしまった。が、媛は心中快く思わない。——自分は天皇の妃になる柄ではない。顔も美しくはないし、姿もよくないから、長い間後宮に仕えるのは無理だろう。それより私の姉の方がいい。「名を八坂入媛と曰す。容姿よし。志またいさぎよし。後宮にめしいれたまへ」と推薦する。男にいいよられた時、一応逃げるのが当時の風習だったとはいえ、頑強に拒否したのは、よほどの理由があつたに違いない。八坂入媛は後に皇后に立ち、成務天皇を生んだ。

ももきね 美濃の国の 高北の 八十一隣りの宮に 日向ひむかひに 行きなむ宮を ありとききて わが通ひぢの 於吉蘇山 美濃の山 靡なびけと
人は踏めども かく依よれと 人はつけども 心なき山の 於吉蘇山 美濃の山

と万葉（卷十三）に謳うたわれたのも、そういう故事を元に風刺したのであろう。於吉蘇山は、今「奥磯」と書き、久々利の背後にそびえているが、ここでは、九九、八十一隣と書いて、くくりと訓よませているのはおもしろい。

八坂入彦は、崇神天皇の皇子で、美濃一帯を領していた。景行天皇が久々利へ来られたのも、美女が目あてではなく、皇別（注4）とはいえ勢力のある豪族と、手を結ぶのが目的であつたろう。或いは征服する必要があつたのかもわからない。天皇が行く先々で、豪族の姫と交わるのは、服従させたしるしであり、当時そういう女性たちは、祭祀さいしを司つかさどる立場にあつたから、結婚することによって、その土地の神も支配することを得たであろう。単なる政略結婚と思つてはなるまい。それは神聖な一つの儀式であつたのだ。

弟媛が遠慮したのは、さしつぎの巫女みことして故郷にとどまり、八坂の神（たぶん奥磯山）を祀る役目を選んだに違いない。事実この家には「姫の穴」、「蛇ヶ谷」などの伝説地があつて、弟媛がここに籠こもつて蛇に食われたという話が伝わっている。これは一種の蛇婚伝説で、奥磯山が古代の聖地であり、巫女が山籠りした記憶が残っているのだと思う。八坂はいやさかで、めでたい名前だというのが、たくさんの坂の意味もふくんでいただろう。この辺の入りくんだ山道を歩いてみると、八坂の語原がよくわかるような気がする。

八坂入彦の墓は、荒川さんの家から、街道をへだてた向い側にもある。泳宮も近いから、このあたりに邸があつたのかも知れない。身隠山の方がはるかに立派だが、古墳の形式も、出土品も、景行より以前のものらしい。美濃には太古から土着の豪族がいて、銅鐸どうたくの出た丘陵付近に住

んでいた。そこへ八坂入彦が侵入して、征服したのではあるまいか。この時代には、ミマキイリヒコ、イホキイリヒコ、イクメイリヒコなど、妙に「入彦」という名前が多いが、それは大和朝廷が天下を統一し、諸国に皇子を派遣して、侵入したことの現われではないかと思う。

くくりは、古い言葉で絞り染めのことをいう。纈纈(注6)ともいったが、これは外来語で、くくりの方が古い大和言葉であろう。美濃には纈纈にながしといった武士もおり、鳴海と並んで絞りの本場だったかも知れないが、私はそうは思わない。陶器はあっても、絞りの伝統はどこにも見当らないからである。それは絞りではなく、白山(注7)信仰から出た名前ではなからうか。白山比売(ひめ)は一名菊理姫(くくり)ともいい、蚕の守護神であり、ひいては織物の神様でもあった。A、絞りとも無関係ではない。単純な絞り文様が、菊の花に似ていることも、その名の起因となったであろう。そう言えば、身隠山にも、大萱の八坂入彦の墓にも、後ろの山には白山神社が祀ってあった。今は忘れられているが、おそらくそれが「久々利」の名の起りなのだ、そう断定してさし支えないように思う。

泳宮には、景行天皇のお手植えと称する椋(むく)の木が立っていたが、優に千年は超える大木で、私が行った時はふさふさと葉をつけて、当分枯れることはあるまいと安心した。少なくとも、村に信仰が残っている間は大丈夫である。危ないのは、自然に育った山野の木で、うっかり天然記念物にしようものなら、すぐ虫がつく。文化を食いものにする虫である。

美濃太田から高山線に乗る。高山に行くのははじめてで、別に敬遠しているわけではないけれども、今まで縁がなかったのと、有名すぎる所は興味がないからでもある。B、この町にはがっかりした。どこもかしこも民芸ばかりで、民芸もこう押しつけられるとうとうしくなる。話に聞いた有名な料理屋も、みな京都の真似ごとで、まったく山家の個性を失っている。もつともこう観光客が多くては、山菜も手が回らかねるであろう。民芸屋さんも、近頃は、東京の骨董屋(こどう)まで仕入れに来ると聞いた。⁽³⁾民芸は、生活の中にとけこんでこそ美しい。飾りものや、お土産物になったらおしまいだ。柳宗悦氏が説いたのは、たしかにこういうものではなかった。美しいものを、美しいとも知らずに作り、自由に使っていたあの頃は、どんなにいい町だったであろう。しきりにそんなことが思われる。

C、さすがに古い町で、いい所も残っている。第一、人情があつい。少なくとも、私が会った範囲では、タクシーの運転手まで親切で、至れりつくせり面倒を見てくれた。おそばもおいしい。駄菓子もいい。近頃はすべて「一流」のものが墮落し、そういう所に日本のよさが残っていると思うが、げて物が謙虚さを失って、一流ぶったら元も子もなくしてしまう。そういうことを地方の人たちに忘れてほしくないものだ。

例の桜へは県庁の安土先生が案内して下さった。高山から一つ手前の、宮村という部落で、ここに水無神社(みな)という飛驒の一の宮があり、まずそのお宮に参拝する。D、木の国だけあって、境内の杉と檜は立派なものである。南側の鳥居を通して、位山(くらい)が望めるが、そこがいわば奥の院で、一位(いち)(樺)の原生林があると聞く。宮廷で使う笏(しやく)は、この山の一位で作るならわしがあったそうで、位山の名もそこから出た。が、安土先生が最近行ってみると、神木ともいべきその木が全部伐られていたという。そういう話を聞かされた時に、私は身を切られる思いがする。

何が文化国家か、一等国か、と問いたくもなる。

桜は一の宮から、線路をへだてて向い側の、大幢寺というお寺にあった。「臥竜の桜」という。樹齡千年、周囲十二メートルというから、根尾の「淡墨桜」につぐ大木である。「臥竜」と呼ばれるのは、親木から出た枝（これだけでも二抱えはある）が地上を這い、一旦土にもぐって根づいた後、もう一本の若木の桜を育てているからで、ほんとうに竜が昇天するような勢いに見える。若木といっても、すでに二、三百年は経た古木で、その生命力には驚くべきものがある。このような大木は、時には見るのが辛いほど弱っているものだが、この桜は親子ともに健在で、みずみずしい葉を一杯に茂らせており、花のころの見事さが思いやられる。が、葉桜もなかなかいい。彼岸桜の一種で、つやつやした緑の葉が、初夏の空に輝いているさまは、花にもおとらぬ眺めである。

根尾の桜は、若木の根をついで復活したというから、この親木も子供から養分を吸っているに違いない。高台の日当りのいい場所、下は田圃たんぼになっているが、桜のためにこの田圃も、つぶすことになっていると聞いた。手入れも十分行きとどき、よく見るような窮屈な石の柵などでかこつてもない。これ程の名木が、天然記念物になっていないのは不思議だが、なまじ指定されない方が仕合せかも知れない。が、されてもされなくても安土さんがついている間は安全であろう。この先生にははじめてお目にかかったが、荒川さんの話によると「臥竜の桜」の恩人であるという。

先生に注意されて、よく見ると、若木から出た細い枝が、地面とすれすれに垂れている。風もないのにゆれ動くその姿は、必死に土を求めているように見えた。何かのかげんで、その枝が土につき、根を出せば、やがてもう一本の新しい桜が芽ばえるであろう。よほど条件がそろわねば、そんな奇蹟きせきは起らない。そういうことを、この桜は、何百年もの間くり返して来たのだ。そして、ただの一回だけ成功した。私は造化くわあの不思議を見る思いがして、触手のような弱い枝にさわってみた。それは孫の誕生に立会たちあうような気分であった。親木も同じ思いで見つめているに違いない。万に一つのはかない願いを、天は再びかなえてくれるであろうか。

（白洲正子『かくれ里』による）

（注1）魯山人……北大路魯山人（一八八三—一九五九）。陶芸、書、篆刻、漆芸など幅広く活躍した。

（注2）床の間……和室の奥側に一段高く設けられた空間。客をもてなすために書や花を飾る。本文では、信楽焼の壺に鉄仙の花がいけられ、桃山時代から江戸時代初期にかけての芸術家、本阿弥光悦（一五五八—一六三七）による書の掛け軸が掛けられている。

（注3）おかん……銚子などに入れた酒を火で加熱すること。

（注4）皇別……天皇家から分かれた氏族。

（注5）さしつぎ……そのすぐ次に続くもの。

(注6) 絞り染め……布をところどころ糸で綴じ括るなどして染料の浸透を防ぎ、染めたあと、その部分が地色のまま文様となって残るようにした染色技法。

(注7) 白山信仰……北陸地方の白山を御神体として崇拝する山岳信仰。

問一 二重傍線部(a)・(b)はそれぞれどのような意味か。最も適切なものを、次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。解答番号は

21・22。

(a) てらい

- ① 能力や魅力をひけらかすこと
- ② 地味で野暮たくみえること
- ③ 光沢があって輝いていること
- ④ 周囲から信奉されていること
- ⑤ 独特の香りを放っていること

21

(b) 造化

- ① 本質・真髓
- ② 人為・加工
- ③ 自然・天然
- ④ 倫理・道徳
- ⑤ 事実・真実

22

問二 空欄 A 〱 D に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は

23。

- | | | | |
|------------|---------|----------|----------|
| ① A 〱そして | B 〱とはいえ | C 〱はたして | D 〱したがって |
| ② A 〱さすが | B 〱そして | C 〱では | D 〱しかし |
| ③ A 〱しかし | B 〱では | C 〱そして | D 〱はたして |
| ④ A 〱なぜなら | B 〱さすが | C 〱したがって | D 〱では |
| ⑤ A 〱したがって | B 〱はたして | C 〱とはいえ | D 〱さすが |

問三 傍線部(1)「この可憐な花に私は、ふと心の中を見すかされたような感じがした」とあるが、ここには「私」のどのような心情が読みとれるか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 目の前の花の名前が、都会を離れて久々利にやって来た現在の自分の状況に合致していることに感激している。
- ② 目の前の花の様子が、自分自身のかわいらしさを自覚して咲き誇っているように見えることに衝撃を受けている。
- ③ 目の前の花の様子が、雑木林の山道を覆いつくすように咲き乱れていることに自然の力強さを感じている。
- ④ 目の前の花の名前を、東京の生活を忘れたいと思っっている自分への励ましのように感じてうれしく思っている。
- ⑤ 目の前の花の名前に、東京のことが頭から離れている自分の心境を言い当てられたようではっとしている。

問四 傍線部(2)「よほどの理由」について、本文中ではその内容はどのように考えられているか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 男に言い寄られた女は逃げるといふ、当時の風習には従う必要があったため。
- ② 美女を獲得することを目的として久々利を訪れた天皇に、反感を持ったため。
- ③ 自分が天皇に反逆しさえすれば、八坂の神が天皇の物になることはないため。
- ④ 自分は故郷に残って、この地で八坂の神を祀る役目を果たすことにしたため。
- ⑤ 容貌や性格にすぐれた姉の八坂入媛が、天皇の妃にふさわしいと考えたため。

問五 傍線部(3)「民芸は、生活の中にとけこんでこそ美しい。」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 26。

- ① 荒川氏は、筆者を連れて移動している途中で車を止め、「たらの芽と山椒、時にはわらびなど」を摘み、その夜の食事の材料とした。このように、何気ない日常生活の中に、自然の恵みを感じる瞬間がたびたび訪れるということ。
- ② 荒川氏の住まいを訪れた筆者は、床の間に「いい信楽の壺に、鉄仙が一輪、掛物は光悦の書」が飾られているのを発見した。このように、工芸品などが時節や場面に応じて配置され、生活の空間とよく調和しているということ。
- ③ 荒川氏の住まいに宿泊した筆者は、寝坊した翌朝、「雑木林を通す朝日がまぶしい」と感じた。このように、生活のリズムの変化によって、いつも目にはしている風景や現象にも異なる美しさが感じられるようになるということ。
- ④ 高山の町を訪れた筆者は、この町の人々の親切さに触れて、「おそばもおいしい。駄菓子もいい」と感じた。このように、ある場所の名産品や工芸品の魅力は、その地の人々の快活さによって生まれるものであるということ。
- ⑤ 大幢寺の臥竜の桜は、「手入れも十分行きとどき、よく見るような窮屈な石の柵などでかこつてもない」という様子だった。このように、貴重なものは、特別扱いされず、日常生活の中でいつも触れられるからこそ美しいということ。

問六 傍線部(4)「なまじ指定されない方が仕合せかも知れない」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 27。

- ① 桜の名木が天然記念物に指定されて有名になると、親木から出た枝が、もう一本の若木の桜を育てているというこの木の特徴が、珍しいものと思われなくなるため。
- ② 桜の名木が天然記念物に指定されたことが話題を呼ぶと、遠方から多くの見物人が訪れ、桜を賞美してきた地元の人々の生活の秩序が乱される恐れがあるため。
- ③ 桜の名木が天然記念物に指定されて厳重に保護されるようになると、筆者が気軽にこの地を再訪し、心ゆくまで桜の様子を見て楽しむことが難しくなってしまうため。
- ④ 桜の名木が天然記念物に指定されて有名になると、その文化的な価値を営利目的で活用する動きが生まれ、それまでの生育環境が損なわれる恐れがあるため。
- ⑤ 桜の名木が天然記念物に指定されたことが話題を呼ぶと、他の類似した天然記念物などと安易に比較されて、否定的な感想が広まってしまう可能性があるため。

問七 本文の表現上の特徴や内容の説明として適切なものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。ただし、解答順は問わない。解答番号は 28 ・ 29。

- ① 『日本書紀』や『万葉集』の字句を詳細に検討し、久々利の地の歴史や文化について、論理的な主張を展開している。
- ② 歴史的な文献を参照しながら、久々利の歴史や文化に思いをめぐらせ、この地の人々や風景を鮮やかに描いている。
- ③ 久々利の文化や自然が破壊されている様子が筆者が心を痛め、無力な自分に怒りを感じた様子が述べられている。
- ④ 筆者の行動や心情と、歴史的な文献の記述が交互に示され、歴史上の人物が読者に語りかけているように感じられる。
- ⑤ 久々利の地での平穏な日々を描きながら、倒置法や体言止めが終始多用され、読者を退屈させない配慮がなされている。
- ⑥ 筆者の行動や心情のみが、ありのままに語られており、久々利での数日間を読者に追体験させる記述になっている。
- ⑦ 筆者の感覚や心情、主張を述べる部分では、短文が用いられ、率直な表現で内容を印象付ける工夫が施されている。

〔二〕 〈古文〉 次に掲げる二つの文章を読み、後の問いに答えなさい。

A 以下は『伊勢物語』の文章（いわゆる「東下り」の一節である。男は京ではわが身は無用のものであると思い、東国の方に住むべき国を求めて下って行った。なお文章Bでは、この男は在原業平として理解されている。

なほゆきゆきて、武蔵の国と下つ総（ア）の国とのなかにいと大きな河あり。それをすみだ河といふ。その河のほとりに群れあて、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかな、とわびあへるに、渡し守、「はや船に乗れ、日も暮れぬ。」と言ふに、乗りて渡らむとするに、みな人もわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さる折しも、白き鳥の、嘴はしと脚と赤き、鳴のおおきさなる、水の上に遊びつつ魚いそを食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡し守に問ひければ、「これなむ都鳥。」と言ふを聞きて、

名（注1）にし負（イ）はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと
と詠めりければ、船（注2）こぞりて泣きにけり。

B 以下は、中世の演劇である能『隅田川』の脚本である。都の北白川の女は、人買いにさらわれた息子を探して東国の隅田川にやって来て、川を渡ろうとし、舟人（渡し守）と問答する。

（女） のう舟人。あれに白き鳥の見えたるは、都にては見馴れぬ鳥なり。あれをば何と申し候（注3）ふぞ。

（舟人） あれこそ沖の鷗候ふよ。

（女） うたてやな、浦にては千鳥ともいへ鷗ともいへ、などこの隅田川にて白き鳥をば、都鳥とは答へたまはぬ。

（舟人） げにげに誤り申したり。名所には住めども心なくて、都鳥とは答へ申さで、

（女） 沖の鷗と夕波の、

（舟人） 昔に帰る業平も、

（女） ありやなしやと言問（注4）ひしも、

(舟人) 都の人を思ひ妻。

(女) わらはも東あづまに思ひ子の、行方を問ふは同じ心の、

(舟人) 妻を忍び、

(女) 子を尋ぬるも、

(舟人) 思ひは同じ、

(女) 恋路なれば、

(地謡) われもまた、いざ言問はん都鳥、いざ言問はん都鳥、わが思ひ子は東路に、ありやなしやと、問へども問へども、答へぬはうたて都鳥、

(注4) 鄙ひなの鳥とや言ひてまし。(中略) 思へば限りなく、遠くも来ぬるものかな、さりとは渡し守、舟こぞりて狭せまくとも、乗せさせたまへ渡し守、さりとは乗せてたびたまへ。

(注1) 名にし負はば……「都という言葉を」名に持っているならば」の意。

(注2) 船こぞりて……「船の中の一行が皆」の意。

(注3) 沖の鷗と夕波の……ここは「沖の鷗と」言ふと「夕波」との掛詞になっている。

(注4) 地謡……地謡の本文は演じられる際には、舞台の右奥に並んで座した六〜八人の役者が斉唱する。ここは女の立場にかわって謡う。

(注5) 鄙の鳥とや言ひてまし……「田舎の鳥とでも言つてやりましょうか」の意。

問一 傍線部(ア)「来にけるかな」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① カ行変格活用の動詞＋断定の助動詞＋過去の助動詞＋詠嘆の終助詞
- ② カ行四段活用の動詞＋断定の助動詞＋過去の助動詞＋疑問の係助詞＋禁止の終助詞
- ③ カ行変格活用の動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋詠嘆の終助詞
- ④ カ行四段活用の動詞＋完了の助動詞＋過去の助動詞＋詠嘆の終助詞
- ⑤ カ行変格活用の動詞＋断定の助動詞＋過去の助動詞＋疑問の係助詞＋禁止の終助詞

問二 傍線部(イ)「いざこ」と問はむ」の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① どれ訪問する好機がやってきたので出掛けよう
- ② そら待ちかねたと質問するだろう
- ③ 今こそ思いを言葉にして聞いてみるがよい
- ④ さあ尋ねてみよう
- ⑤ それ訪ねて行くがよい

問三 傍線部(ウ)「言問ひし」の主語として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 隅田川の渡し守
- ② 在原業平
- ③ 北白川の女
- ④ 隅田川の白い鷗
- ⑤ 在原業平の妻
- ⑥ 北白川の女の息子

問四 傍線部(エ)「同じ心」とあるが、その内容として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 隅田川の渡し船にたまたま乗り合わせた誰しもが、当然のごとくいなくなつた我が子を追つてきた母親に同情した。
- ② 舟人は北白川の女のように世の息子を持つ女性は皆同じく、子がいなくなれば必死になつて探し求めてさまよい歩くのだと悟つた。
- ③ 北白川の女は母親というものは、愛情深く育てた子どもがいなくなれば皆同じく、正気ではいられなくなるものだと思つた。
- ④ 渡し船に乗っていた人々は皆同様に、必死になつて人を捜し求めている母親に感動し、協力して船に乗れるように便宜を図つた。
- ⑤ 舟人と北白川の女は、恋しい人の行方や様子を知りたいという気持ちは、在原業平も女も同じなのだと分り合つた。

問五 傍線部(オ)「恋路」の説明として適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 。

- ① 在原業平が都に残してきた者を恋慕いつつ行く旅路
- ② 北白川の女が息子を探し求めてやって来た道
- ③ 男が愛する女を残し後ろ髪引かれる思いで旅して来た道
- ④ 都鳥がつがいの鳥を求めて進んできた川の中の道
- ⑤ 母親が我が子を訪ね東国へと旅をして来た道

問六 二つの文章に関する説明として適切でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 35。

- ① 隅田川といえば、能『隅田川』が創られた室町時代の観客には、『伊勢物語』の表現や場面がすぐに想起されるほどに確固としたイメージが浸透していたと考えられる。
- ② 平安時代に成立した『伊勢物語』の文章の字句や表現を、室町時代成立の能『隅田川』の文章は、細部にいたるまで巧みに、効果的に採り入れている。
- ③ 能『隅田川』の登場人物の一人である舟人は、『伊勢物語』の文章表現との関連を室町時代の能の観客に想起させるために、『伊勢物語』に見える渡し守の遠い親戚縁者として設定されている。
- ④ 『伊勢物語』の男は恋しい人を都に残しており、能『隅田川』の北白川の女は恋しい人を求めて東国にやって来ており、両話の筋は全く異なるのだが、ともに京都を離れ隅田川まで旅してきたという点に通じるところがある。
- ⑤ 「名にし負はば」の歌に見える都鳥の名は、『伊勢物語』の男にとっても、能『隅田川』の北白川の女にとっても、ゆかりある京から遠く離れた地に来たということを実感させるものである。

問七 能を洗練された芸術にまで高め、数々の能楽論を残した人物として適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。解答番号は 36。

- ① 足利義満
- ② 世阿弥
- ③ 竹本義太夫
- ④ 観世元雅
- ⑤ 近松門左衛門